

L'aile d'Howl

【ライル・ドウル：ホウルの翼(伝語)】

2014年12月号

No.101



小学生ハンドボールのルールが
来年度より改正されます。大会運
営、レフェリーにも関わることです。
周知していきましょう！

**2014年もご愛読
ありがとうございました☆**

東北小学生ブロック大会及び 小学生新ルールについて



12月6日～7日、宮城県大崎市の田尻総合体育館にて、第9回東北小学生ハンドボール大会が開催されました。岩手県からは、リトルハンドさんとヴォルペ滝沢さんの2チームが出場しました。わが花巻クラブジュニアは、県民体育大会での予選の結果、夏の東日本大会(チェリーカップ)に出場させていただいたため、今回この大会には出場しませんが、私編集長は、同日に行われた小学生委員会東北ブロック会議に出席するため単身会場に乗り込みました。また、ただ会議に出るだけでは申し訳ありませんので、審判もお手伝いさせていただきました。

まず、今大会の特徴ですが、平成27年度から正式に導入されることになっている小学生ハンドボールの新ルールを適用した初めての東北ブロック大会でした。平成26年度は移行期間として、まだ試行の段階ですが、各チームではこの様式に従い練習を行うようになってきています。小学生ハンドボールに携わっていない方にはまだあまり馴染みがないと思いますので、簡単に以下にご紹介します。

まず、新ルール導入の経緯ですが、小学生の段階から1対1が強い選手を育てようという目的が挙げられています。OFの観点では、空間認知能力、つまりオープンスペースをいち早く認識してその部分を強く攻められる能力の強化が挙げられます。DF目線では、「相手にシュートを打たせない」DFではなく、「積極的にボールを奪いに行く」姿勢を育てる、すなわち0-6DFのような引いたDFで相手のシュートを阻止するのではなく、DFの本来の目的である「マイボールにする」ことを目指したDFの強化が挙げられています。これらの目標の実現に向け、日本ハンドボール協会からは次のようなルール変更が提案されました。①試合開始及び得点後のプレー再開はゴールスローから行う。②前後半ではなく、8分-(5分)-8分-(5分)-8分の3ピリオド制とする。③3-3や3-2-1などの高いラインでのDFシステムを推奨する(罰則等はなく、あくまで努力事項)。

実際の試合を見ても、上記①については、得点後にGKがGKライン(4M)を踏み、レフェリーの笛からゴールスローを行い、プレーを再開する方式で今大会は適用されていました。県によっては得点後にレフェリーの笛なしでゴールスローを行っていたため、GKの子どもたちもラインを踏み忘れるなど、やや混乱する様子が見られました。スピードある展開を優先するのであれば、レフェリーの笛なしですぐに攻撃に移行する方が良いのではないかと、というのが私の個人的意見ですが、得点後のプレー再開には、通常のルールどおりレフェリーの笛をもってリスタートという考えがあるようです。



②については、新様式では速攻の回数が増え、選手の体力消耗が激しくなるため、休憩時間を2回設けるという配慮に基づくものです。ここで気を付けなければならないのが、2回目のブレイクの際に、レフェリーが再度コイントスを行って、スローオフとコートチェンジをしなければならないということです。この部分は、レフェリー及びチーム関係者がきちんと認識しておかないと、忘れてしまうことになるでしょう。

③についても、かなり議論がなされた部分です。最初に提示された新ルールでは、「基本的にマンツーマンDFとし、9Mライン内でプレーするOFプレーヤーをマークするDF以外は、9Mライン内に入ってはいけない」という文言が含まれていました。さすがにこれは厳しいということで、積極的にボールを奪いに行くDFスタイルを推奨するという「努力事項」に留まっています。もちろん、高いDFを敷くことでDF間のスペースが広がるというリスクが生じるのですが、翻ってそれを守るができる個々のDF力の強化が求められるということだと思います。レフェリーの観点としては、あくまで「努力事項」ですので、高いDFをしていないからと言って罰則の対象とはなり

ません。「口頭で高いDFをするように促してください」とは言われていますが、明確な線引きがないことも不安材料であることは否めません。

今回、初日の試合後に会場で行われた東北小学生委員ブロック会議並びに東北小学生普及推進会議では、この新ルール導入に関して様々な意見が出されました。あるチームでは、得点後のゴールスローによる再会の際、味方のOFプレーヤーが既に相手コートの9Mライン内に位置を取っていたとして、スローのやり直しを求める声が聞かれました。フリースローと同じ考えに基づく意見だったと思いますが、ゴールスローはフリースローと違い、ファールに対して与えられるものではありませんので、これは特に問題ないとのことでした。また、これは私が気づいたことでしたが、ある女子の試合で、ゴールスロー再開の場面で、味方のプレーヤーが全員マークに付かれてしまい、パスを出す相手がなくなって、数十秒間GKがボールを持ったままウロウロする状況が見られました。また、別な試合では、得点後のゴールスローを全てパスカットしようとするチームがありました。これは立派な戦術であり、結果としてこの作戦が成功したわけですが、残念なことにやられたチームはフロントコートに全然ボールを運ぶことができず、力の差が歴然とした試合になってしまいました。小学生チームでは、率直に言うともあまり運動が得意でない(投げられない、走れない)子どもたちがGKになるケースが少なくありませんし、別の年代カテゴリーでは想定しえないことが実際に起きてしまったりするのがU-12の世代だと思えます。もっと様々な状況が起こりうることを考慮していかなければならないことを痛感しました。

新ルールの下では、最後まで走り切れる体力や走力も求められますし、上記に記載したような投力、状況判断力ももっと必要になってきます。練習としては非常に良いかもしれませんが、実際に試合になるとどうでしょうか。あまり運動が得意でない子どもたちが新様式についていけない、なんてことにならないでしょうか。そのような子どもたちを作らないのが指導者の腕の見せ所、と言われればそのとおりにかもしれませんが、最終的にハンドボールを普及しつつ強化を進めていくために、何が子どもたちにとってベストなのかを引き続き模索していかなければなりません。

大会に話を戻します。男子の部は、リトルハンドさん、ヴォルペ滝沢さんとともに本宮、郡山の福島勢に敗退。身長もあり、機動力にあふれる本宮スポ少が優勝。準優勝は地元・黒川HCでした。女子は、HC黒川が優勝。本宮スポ少が準優勝、東根スポ少が第3位となりました。リトルさん、ヴォルペ滝沢さんとともに、HC黒川、本宮スポ少との組み合わせとなってしまう、残念ながら上位進出となりませんでした。

2月にはまた山形県東根市で恒例の大沼杯が開催されます。新ルールへの適応も含め、岩手県勢が上位入賞できるよう、来年早々から頑張っていきたいと思えます。この場をお借りして、今大会の運営に関わった宮城県ハンドボール協会の皆様、東北ブロック小学生委員の皆様、本当にありがとうございました。



花巻クラブジュニア親子対決☆勝ったのはどっち？



11月30日、花巻市立若葉小学校体育館にて、恒例の花巻クラブジュニア親子対決が開催されました。小学校低学年の入部も増えており、若い親御さんもたくさん参加してくれました。しかし、隠れハンドボーラー、いるもんですね。実は昔ハンドボールをやっていた、という親御さんがたくさん登場。つついあの頃を思い出したのか、子ども相手に全く手加減せず、すごいシュートを打ち込んでいた親御さんもいました…そして気が付けば12vs25のダブルスコアで大人チームが大幅リード！このままではまずい…途中、コーチングスタッフが試合に交じり、また疲れが見え始めた大人チームに子どもたちも一気に追い上げ！最後はトータルスコア59-58でジュニアチームの勝利！子どもたちは参加賞のお菓子をもらってご満悦。夜には大人の懇親会も開かれ、ますます団結力が上がった花巻クラブジュニアでした。参加してくださった皆さんありがとうございました！

石垣島でのハンドボール交流事業に参加してきます☆

10月に県営体育館で今シーズン開幕戦を戦った日本リーグ所属の琉球コラソン。彼らは、スポーツツーリズム受入体制の拡充に努めたり、沖縄の離島においてハンドボール教室を展開したりしています。今年、岩手県出身の中村彰吾選手が琉球コラソンのメンバーとなった縁もあり、なんと岩手県のハンドボール少年団を石垣島に招待し、八重山ハンドボール少年団とのハンドボール交流事業を企画してくださいました。岩手県からは、各少年団から選ばれた選手18名と引率者4名、計22名で石垣島を訪問します。1月9日出発、10日～11日まで現地で合同練習(琉球コラソンによるハンドボール教室)と観光・交流、12日に岩手に戻る予定となっています。このような素晴らしい機会を与えてくださった琉球コラソンそして関係者の皆様に心から感謝するとともに、この交流を有意義なものにできるよう頑張ってくださいと思います。

L'aile d'Howl (ライルドウル)
2014年12月号
2014年12月25日発行
発行:花巻市ハンドボール協会
Special thanks to 皆様